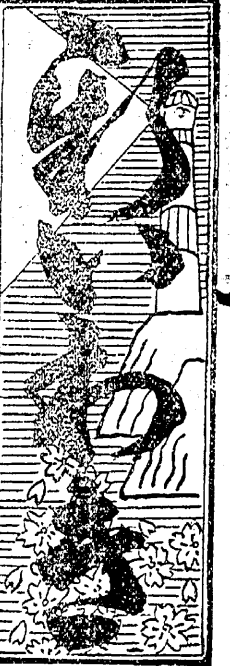


刊夕日四廿月一十



休日・日曜 郵税十五錢 郵費二錢 廣告料 一行四〇錢 場所指定 廿四〇錢 發行所 牛谷政 發行所 牛谷政 牛谷政

常識講座 日・日曜 郵税十五錢 郵費二錢 廣告料 一行四〇錢 場所指定 廿四〇錢 發行所 牛谷政 發行所 牛谷政 牛谷政

平町有土地處分と 愈よ景氣來の曙光

不動産に目を着けて来た傾向も 其爲かと窺はれる昨今

平町では町有土地處分による模様であつて若し最終つて南町裏道路改修その他故者の酒井氏に夫れを困難土木事業の財源に充當するであれば同一價格を以て他意向の如く去る二十二日町に二、三の希望者もあるら役場に土木委員會を開いたしく右の賣却は町の意向に其の結果は字田町元平陽校添ふ處分が近づいてゐる其跡百數十坪が借主酒井猶次その他左記に對しても適當の八との間に幾折衝の未大體處分を見込まれ不動産に若坪七十間總額約九千圓で賣却の買ひ強味を呈して来た約が整ふものらしくこれには愈よ景氣來の曙光が對する借地料の未納分が充と窺はれてゐる、

▲町有土地處分個所推測 小路湯殿山下、共濟病院火見橋下、田町赤心堂病院前、三丁目丸ほん家とすれば近く本會議に附さ 具店協等

災害後に於ける平驛 旅客は減貨物は激増

北海道方面からも鳥賊の入荷 政府拂下米の到着増加

平驛今十月に於ける客貨の幾何かの黒字でないかと見動きは例年農繁期の影響でられてゐたが過般の災害後減少を常としてゐる爲めに旅客方面は急激なる減少を甚だしい赤字だらうと見られし昨今之れと逆比例に貨物は意外な活氣で此の分なる、 増荷の種類は政府拂下げれば少なくも例年並か或は

米の關係らしい米の到着ししが當月貨物は兎も角もで月末集計にも増加を見黒字は確實で貸安で速達さ込まれ次は地方海濱の災れる特別小口扱の影響と行害から鳥賊その他の鮮魚商運が自動車に代つた爲め類が北海道、青森、鹽釜方小荷物取扱ひに甚だしい減面からの入荷を激増し着少率を見せ旅客收入は以上荷は更に附近各驛に發送の結果として二千圓(八分)されてゐる、

右は國縣道の破損でトラッ輸送が充分でない關係ら

四千名の調印を携へ 石炭運賃値下の請願

赤木知事にも盡力を請ふ 來月四日十五炭礦代表出縣して

常盤の各炭礦が主務省に向ふ等であるが請願の理由つて猛運動を續けてゐる石は大衆左記の如くである 炭の運賃値下げ陳情は依然主務省の反省を見る能はないのであるが鐵道に於て單り石炭のみに運賃の高價なことは他の貨物運賃に比較し歴然たるもので之れが爲めに受ける同地方炭礦業者の悲運云ふべからざるものあり如何なる苦を耐めても所志貫徹の爲め最後まで戦ふとする同値下げ同盟會では來る十二月四、五兩日本縣會の開會中なるを好機とし加蓋十五炭礦の従業員四千名の調印を携ふる前記各礦の代表赤木知事に其の窮狀を訴へ盡力を請

警炭は北海九州炭が海運 昨年出來秋に第一回の催し同の壯途を祝福する送別の爲め居宅南西約十間ばかり賃低落による侵入で東都を試み好成绩を上げたので辭ありたるに對し永島君の距たる舊大平館跡の直下を地方に於ける唯一の需要本年も來月二十五、六日頃答辭を述べ宴に移つて除與約六尺ほど掘下げると水成地を奪はれる所となつて前年より範圍を擴めて同第の琵琶及び劍舞あり正午散岩を鑿る鶴嘴の先に鐵類様の急を救済されなければ常務中であるが本年は五百俵會であつた。 警の炭業は遠からず潰滅途に上るであらうと。

政府米の入荷 一千俵餘

石城には入る 去る十月中に

石城地方に於ける政府拂下米の到着は去る十月中に共助會の額を組織すべく酒井の湯本驛に入荷し東京から直送の百六十俵が泉驛にも出來たので明年一月一日は入つてゐるが今十一月はどれだけ這入るか今回の災害で地方米の質が甚だしく低下されたものとすれば買高と買安の幅がなくなるから政府米の入荷は減少することとなるであらうと。

平の入營兵 歡送會

縣社に報告の後 今日聚樂館にて

平町主権の同町本年入營兵永島道雄君外二十五名の歡送會は今日二十四日午前九時半縣社子鏡倉神社前に奉告祭を執行の後同十時半から平町駅前農會倉庫主権の同聚樂館に於て送別の宴を關内一七植木職業城一九方に於て去る十七日温室増設の三日平驛に搜索方を願出た

役員改選 平洋食組合の

競争裡に決す 平町西洋料理組合では此の程總會を開いて役員改選に猛烈なる競争を演じられたが左記當選に決し新任幹部連は向後組合の圓滿に萬全の努力をなす事になつた、

▲組合長大沼與之吉(カ宮城縣登米郡石越村の南郷フエータヒラ) 副組合長宇高藤二一七料理店初音館高橋武(松ヶ岡) 會計半谷壽良(マルトモ食堂) 幹事高田久次郎(ダイヤ) 庶務高田久次郎(ダイヤ) 星野久吉(蛇の目) 佐藤片町に髪結に行くこと稱して善次郎(福榮亭) 片寄半三郎(ホタン) 高崎松三(コンパル) 顧問谷泰知(平樂亭) 久田好雄(華) 越驛から水澤驛までの切符を求めて乗車逃走したる事實あるも同人は本年八月三日同家に拘へられた前借二百六十圓を踏倒して居り其の後行方不明の爲め今二十

夜長物語 漫趣漫評

求思樓 筆勢雄偉奔放飄逸酒達まりて居たが急に立退いてく

「そなたですかでは仕方がない心外さがあつたのでせう、人とはして天保の頃詩と書人ぢやな」へい歌舞技役者か、掃除して床の間に花を挿し一葉の雲形のある短冊を以て名を知られた人である岩井紫若さんだそうぞ、

人骨と爛鍋

發掘す 石城郡好間村の愛谷字堀の

百六十圓を踏倒して居り其の後行方不明の爲め今二十

酌婦逃走

宮城縣登米郡石越村の南郷

子(五)は去る十九日午前九

夜長物語 漫趣漫評

求思樓 筆勢雄偉奔放飄逸酒達まりて居たが急に立退いてく

「そなたですかでは仕方がない心外さがあつたのでせう、人とはして天保の頃詩と書人ぢやな」へい歌舞技役者か、掃除して床の間に花を挿し一葉の雲形のある短冊を以て名を知られた人である岩井紫若さんだそうぞ、

夜長物語 漫趣漫評

求思樓 筆勢雄偉奔放飄逸酒達まりて居たが急に立退いてく

「そなたですかでは仕方がない心外さがあつたのでせう、人とはして天保の頃詩と書人ぢやな」へい歌舞技役者か、掃除して床の間に花を挿し一葉の雲形のある短冊を以て名を知られた人である岩井紫若さんだそうぞ、

産業

穀物の補助

簡易乾燥法

(ト) 棚と傾斜、側壁の傾斜は上部に於て八寸縮まる程度にする(室幅二間位の場合は一尺位とす)及進端の傾斜立てがけは第三段目の棚より一寸五分位の處に上端を下端は棚梯子の左端より三寸五分位に決める斜板は更に壁と斜板間には中程まで穀殻を充填すれば保温上効果がある、棚、進利用には入れの容易なることを必要とするものであるが故に兩側に棚梯子を立て進の載る部分は細竹を編んで篋を作り猶ほ壁際の一木を固定して他は棚の上を移動させて伸縮の出来る様にする、竹棚は伸ばしたとき縮まつた爲め最後の一本を止め釘(一寸釘)にて懸ける様に又編む細は成るべく細繩がよい竹棚の竹は周囲二寸位で真直ぐで揃つたものを撰ぶ様にし一タナ八本位を用ふ、タナは水平に設け最下段は緑臺の表面より一寸下に打ち付ける、これは進を直ちに緑臺に載せるためである、棧間は四寸五分(但し建ちの低い場合は四寸位まで縮めてもよい)とし八尺建ちては十四段となる即ち進は

片側十四枚兩側(二室)二十八枚となる、要するに以上の如く寸法を定むれば上二段の進は斜板に密接し第三段目に於て約三分斜板と進端間に隙間を生じ最下段の進は緑臺上に一寸寸載る事になる。

難波醫院

内科...醫學博士 難波睦
平町大町新川端
(電話五〇二番)

スペイン G.H.N 元 詰
甘味葡萄酒
ゴルフポートワイン
1.10
御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です
平二) 西村屋藥舗 (電三)

婦護 看護婦
平看護婦會
電話三〇七番

お醤油は...ヤマフル

醬油味噌
たひら正宗
鯉節食料品

明治生命 代理店 磐城

山崎合名會社
山崎與三郎

◎二間か三間位の住み心地よい文化住宅
最初からお金も入らずに好きな場所へ好きな家が十圓位の家賃を拂つて住んで居る中に五年で自分の家となる方法
サラリーマン絶好の機會

◆月賦建築(第一回申込受) 付二十戸限り
御希望者は至急御相談に御出下さい
平町南町十一番地(廿三夜尊側)

寶商事社 伊東一

洋服の御用命は 高島屋

模範裁縫 高島屋洋服店
平町驛前 電話三八六番

一新柄着荷

外科 内臓外科 醫學士 内木宗八
産科、婦人科 院長 木村寅次郎
平町新川町一九 (電話一六四番) 木村病院

入院應需 藤沼醫院
電話五〇七番
紺屋町

佛蘭西料理 サロン
レストラン
平町田町 電話352

服んで良く効く
絶対的胃腸を害しませぬ
特効藥 濟淋
本舖責任製劑 水野藥局
平町一丁目 振替貯金口座 仙臺八八七六番

カクニ石鹼
生命と信用を賭して精選せる純良の
●質と●味●
最後の一片が消え去る迄優雅な香が續く
お化粧用 一ヶ 十錢
洗濯用 一ヶ 十錢
一ヶ 十錢
つるや 平町4 電140

勉強振りを御覽下さいませ

内科、小兒科 平町田町、電五二三番
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科 高久病院
レントゲン科 院長 醫學士 高久忠

ランチ四品付 五十錢、五品付定食 壹圓
西洋料理 ボタン
支那料理 ボタン
電話 五七六番

